

ブリの稚魚モジャコの捕獲

ヒアリング結果

【三重県立水産高等学校】

- 授業の一環としてモジャコ（ブリの稚魚）の捕獲を行っている。
- 年毎に捕獲できる個体数にばらつきがある。
2019年はモジャコの成長が早く捕獲が出来なかった。
- モジャコの成長の原因は、エサの量、海水温の上昇等、様々に推測できるが、特定は困難。
2017年8月からの**黒潮の大蛇行**の影響もあり得る。
- 温暖化への対応には、精度の高い将来予測が必要。
そのためには、海の変化を確認するモニタリングの実施が重要。



右上：モジャコ 右下：流れ藻と、藻の下にいる小魚を捕獲するため、すくい網を巻き上げているところ

ギフチョウ（春の女神・ギフチョウが暮らしやすい環境）

ヒアリング結果

【名張市立薦原小学校】

- ギフチョウは人の手が入った里山で育つチョウ。開発や里山の荒廃でギフチョウの生息に適した環境は減少してきた。
- 桜の開花が早まるのと同様に、ギフチョウの羽化も早くなっている。



左：ギフチョウ
下に見える緑は幼虫の食草
ヒメカンアオイ

右上：ギフチョウについて学ぶ3年生の理科の授業

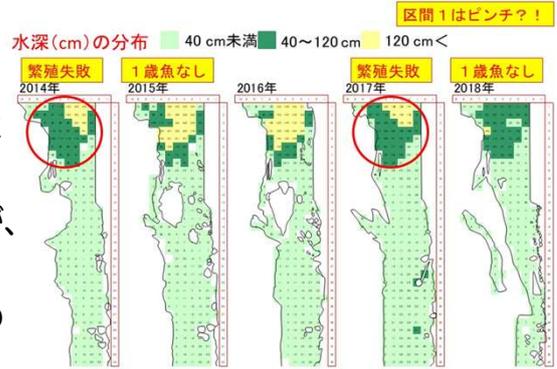
右下：保護団体の方から説明を聞く4年生



ネコギギ (ネコギギの保全活動) ヒアリング結果

【鈴鹿高等学校】

- 絶滅が危惧される淡水魚ネコギギの保護と繁殖に取り組んでいる。
- 人工的な繁殖は着実に成果を上げているが、ネコギギの生息環境は極めて脆弱。
- 豪雨による河川への土砂流入がネコギギの生息を脅かしている。



右上：生息地の水深の経年変化。水深が浅くなった年は繁殖に失敗している。
右下：ネコギギの稚魚と放流の様子
左：ネコギギの成魚

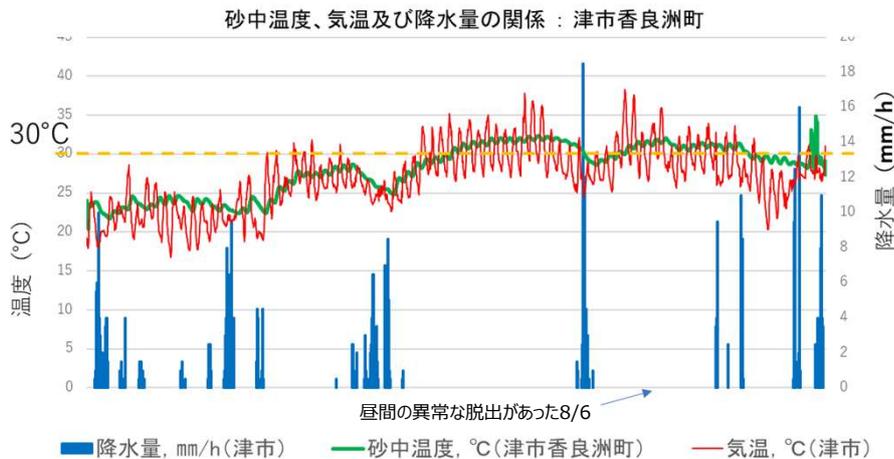


3

アカウミガメ (猛暑の影響でウミガメの子どもが熱中症になっている) ヒアリング結果

【ウミガメネットワーク三重】

- 砂浜の減少がアカウミガメの産卵に影響を及ぼしている。



- 2018年、子ガメが昼間に巣穴を出て海へ向かう異常行動を確認している。原因として、砂中温度の高温化を疑っている。

4

干潟の生物（松名瀬干潟に暮らす生き物の変化）

【三重中学校・高等学校】

- 南方系のカニであるハクセンシオマネキが増加し、生息場所も広がっている。
- 干潟の底質と生息する生き物がともに変化してきているが原因は特定できていない。
- 2019年は、例年、順調に生息していた場所でアマモが枯れた。

ヒアリング結果



右中央：ハクセンシオマネキ、ヘナタリ

右下：松名瀬干潟
河口干潟、潟湖干潟、前浜干潟の三つが一箇所に集まっているのは、全国的にも珍しい。

